

## 基調判断

(2021/8月中心分)



**新**型コロナウイルスの感染再拡大の影響などから、生産活動が停滞傾向にあり、投資活動も弱含むなかで、個人消費は底堅いものの、一部に厳しさがあ**り**、総じて持ち直しの動きに一服感がうかがえる。

最近の国内経済については、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、このところそのテンポが弱まっている。このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、8月の公共工事請負金額は2カ月連続で前年を下回り、横ばい圏の動きとなっている（2021年4～8月累計の対前年比は1.7%減、全国5.1%減）。

設備投資は、2021年度は製造業は前年度を上回り、非製造業は前年度を下回る計画となっており、全産業では前年度を上回る計画（当行企業動向調査9月の全産業設備投資額は、2020年度実績対前年度比16.9%減、2021年度計画同3.0%増）。

住宅建設は、7月の新設住宅着工戸数が2カ月連続で前年を下回り、弱い動きとなっている。

個人消費は、大型店売上高（8月）は2カ月ぶりに、家電量販店販売額（7月）は2カ月連続で、それぞれ前年を下回った。乗用車新車登録台数（8月）は3カ月ぶりに、前年を上回った。底堅い動きがみられる。

生産は、7月の鉱工業生産指数（季調済指数）が、鳥取県は2カ月ぶりに前月を上回り、島根県は2カ月ぶりに前月を下回った。一部で部品や原材料の供給不足や価格上昇による影響がみられ、持ち直しの動きに一服感がうかがわれる。

雇用情勢は、7月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差0.01ポイント低下の1.43倍、島根県では前月差0.05ポイント上昇の1.55倍となった。一部に持ち直しの動きがみられる（全国は1.15倍）。

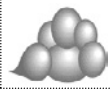
企業の業況判断は、足元、製造業は改善、非製造業は悪化し、全産業では悪化となった（前回▲1.2→今回▲16.2）。先行きについては、製造業は悪化、非製造業は改善を見込んでおり、全産業では改善の見通しとなっている（当行企業動向調査9月調査）。

このように、当地の景気は、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響などから、生産活動が停滞傾向にあり、投資活動も弱含むなかで、個人消費は底堅いものの、一部に厳しさがあ**り**、総じて持ち直しの動きに一服感がうかがえる。

先行きについては、感染状況に伴う不透明感が増すなか、国内外の需要回復の動向に振れが生じるなど、当面は緩慢な持ち直し基調が続くものと予想される。

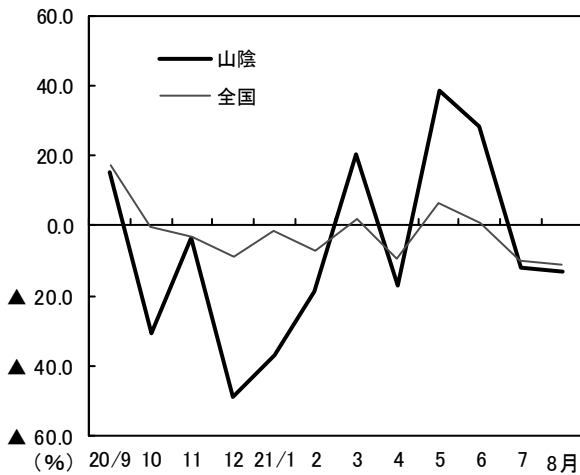
# グラフでみる経済動向

## 1. 公共投資



### 『横ばい圏の動き』

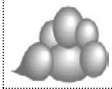
公共工事請負額（対前年比）



- 8月の山陰両県の公共工事請負状況は、件数が455件、請負額は前年比12.9%減の176億25百万円と、2カ月連続で前年を下回った。
- 請負額の年度累計（2021/4-8月）は、前年比1.7%減と前年を上回っている。

《資料出所：西日本建設業保証㈱》

## 2. 設備投資



### 『全産業で前年度を上回る計画』

設備投資額（対前年度比）

(単位：%)

	19年度実績	20年度実績	21年度実績・計画
全産業	15.6	▲ 16.9	3.0
うち中小	40.1	▲ 18.2	▲ 9.0
製造業	14.2	▲ 22.0	6.7
うち中小	50.2	▲ 28.1	▲ 7.7
非製造業	18.2	▲ 9.5	▲ 1.6
うち中小	29.9	▲ 5.6	▲ 10.4

- 2021年度の設備投資額（当社企業動向調査 21年9月調査）は、全産業で前年度比3.0%増（製造業同6.7%増、非製造業同1.6%減）と、前年度を上回る計画となっている。

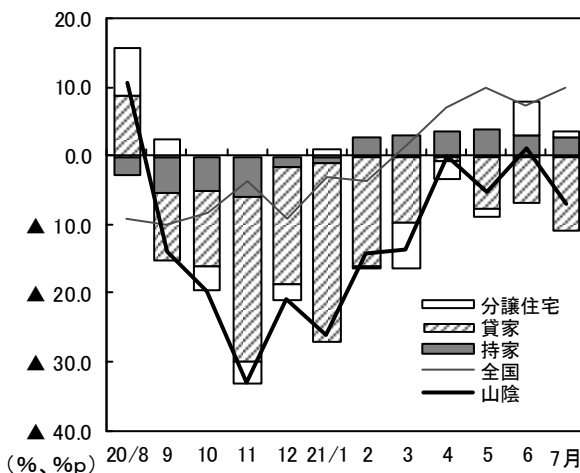
《資料出所：当行》

## 3. 住宅建設



### 『弱い動き』

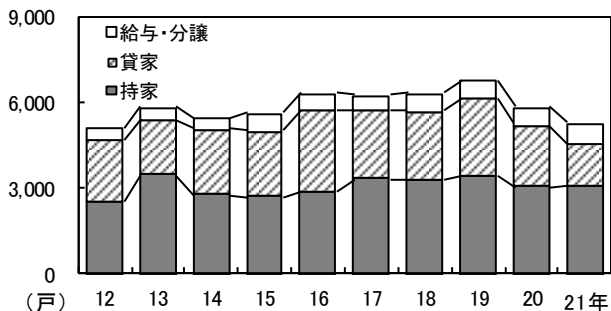
新設住宅着工戸数（対前年比、寄与度）



※「新設住宅着工戸数」山陰両県の対前年比は、全体、利用関係別寄与度ともに3カ月移動平均で表示している(ただし全国は単月)。

また、「利用関係別戸数」は、過去10年間における年間着工戸数の推移を利用関係別に示しており、うち2021年は年率換算の推計値を掲載している。

利用関係別戸数



- 7月の山陰両県の新設住宅着工戸数は前年比17.7%減の459戸と、2カ月連続で前年を下回った。また、全国は同9.9%増と5カ月連続で前年を上回った。

- 利用関係別にみると、分譲住宅（前年比1.4%増）が前年を上回り、持家（同2.8%減）、貸家（同46.0%減）は前年を下回った。

- 2021年累計（2021/1-7月）は、全体では前年比8.3%減と前年を下回っている（全国は同4.3%増）。また、利用関係別にみると、貸家（前年比27.2%減）、分譲住宅（同6.5%減）は前年を下回っている一方、持家（同4.4%増）は前年を上回っている。

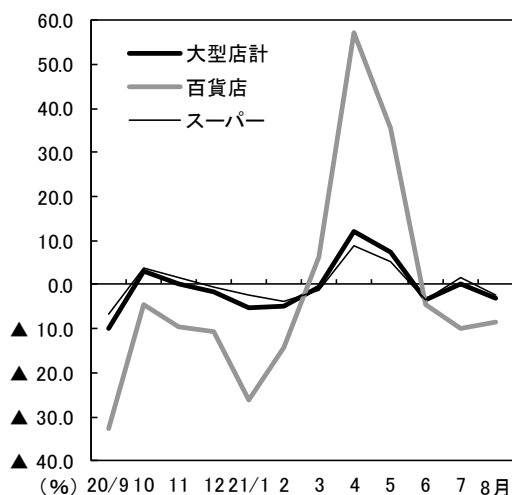
《資料出所：国土交通省》

## 4. 個人消費



## 『底堅い動き』

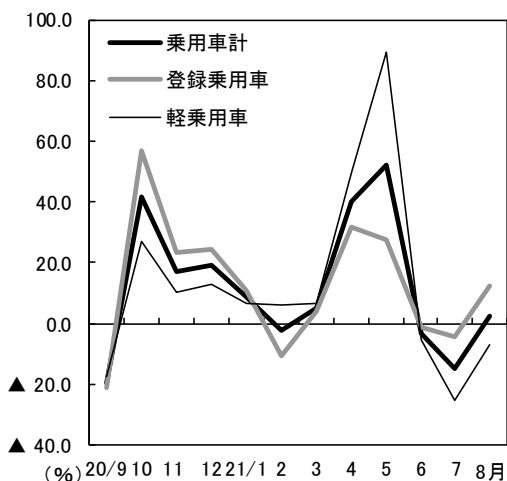
大型店売上高（対前年比）



- 8月の山陰両県大型小売店（約20社、速報値、当行調査先）の売上高は、158億64百万円で前年比3.0%減と2カ月ぶりに前年を下回った。
- 2021年累計（2021/1-8月）は、前年比横ばいとなった。
- 百貨店（8月）は、全体で前年比8.4%減と、3カ月連続で前年を下回った。前線停滞による豪雨、新型コロナウイルス感染者数急増で、入店客数、売上高ともに減少した。一部高額品（バック、美術品等）が動いた。ただ、一昨年対比では23.7%減と依然として厳しい。
- スーパー（8月）は、前年比2.5%減と、2カ月ぶりに前年を下回った。一昨年対比では、7.5%減となった。
- 先行きについては、新型コロナの影響が続き、不透明感を払拭できないが、「軽減税率」、「マイナポイント事業」、GoToトラベル事業再開後の「地域共通クーポン」等による消費の下支え効果や、新型コロナのワクチン接種の普及による購買意欲の回復も期待される。

《資料出所：当行》

乗用車新車登録台数（対前年比）

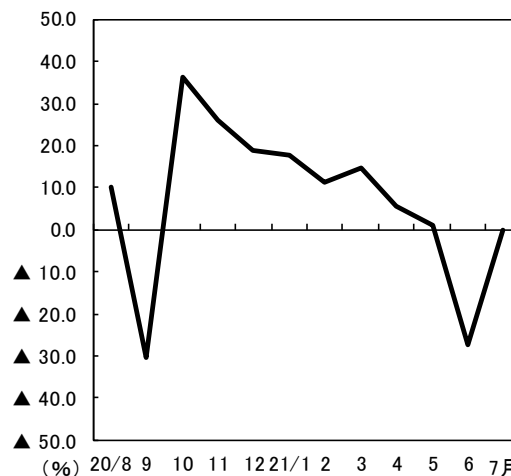


- 8月の乗用車新車登録台数は、登録乗用車（普通車、小型車）と軽乗用車合計で前年比2.5%増と、3カ月ぶりに前年を上回った\*（全国は同2.5%減）。
- 2021年累計（2021/1-8月）は、前年比6.7%増となり、前年を上回っている。\*【半導体不足に伴う減産の影響から、長納期化進展】
- 登録乗用車は、普通車が前年比22.2%増と、11カ月連続で前年を大幅に上回った。小型車は同3.9%増と、4カ月ぶりに前年を上回った。全体では同12.6%増と、3カ月ぶりに前年を上回った。
- 軽乗用車は前年比7.2%減と、3カ月連続で前年を下回った。
- 一昨年対比では、14.4%減と水準は低い。

※軽乗用車は「届出」の台数

《資料出所：中国運輸局鳥取運輸支局、同島根運輸支局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会》

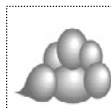
家電量販店販売額（対前年比）



- 7月の家電量販店販売額は、前年比0.0%減と、2カ月連続で前年を下回った。一昨年対比では、12.1%増と水準は高い。
- 7月は、梅雨明け後の猛暑の影響と、昨年の反動からエアコンの販売が好調であったことに加え、一部洗濯機や、調理家電商品等が販売を伸ばした。
- 2021年累計（2021/1-7月）は、前年比1.2%増となり、前年を上回っている。
- 先行きは、新型コロナの影響が尾を引くことに加え、伸びていたテレビの買い替え需要が一服したことから、大幅な伸長は見込みにくい。ただ、消費者の衛生意識の高まりなどから引き続き高性能・高級機商品（掃除機、洗濯機等）による消費の下支え効果が期待される。

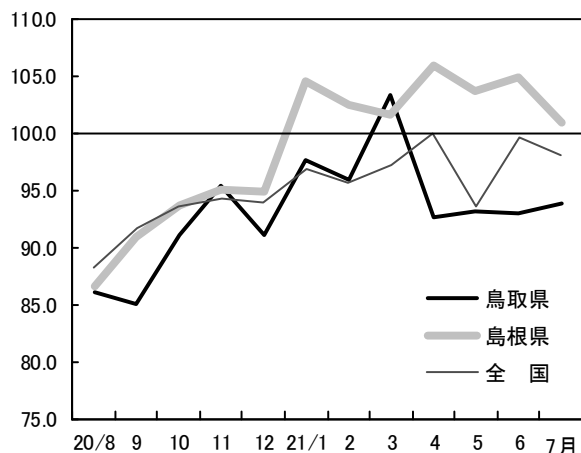
《資料出所：中国経済産業局》

5. 生産

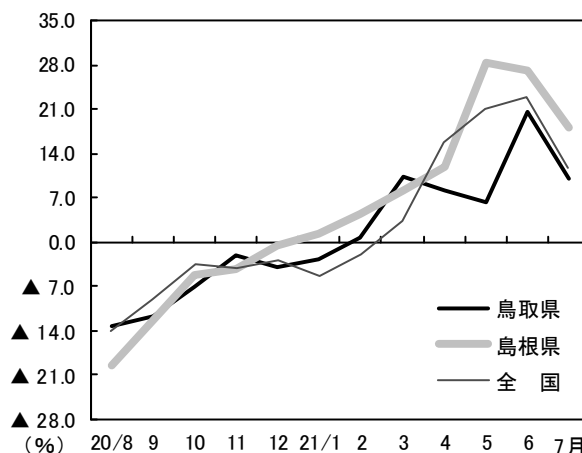


『持ち直しの動きに一服感』

鉱工業生産指数（季調済、2015年=100）



鉱工業生産指数の対前年比（原指数）



■7月の鉱工業生産指数（季調済、2015年=100、島根県は速報値）をみると、鳥取県は93.9で前月比1.1%上昇し、島根県は101.0で同3.7%低下した。鳥取県は2カ月ぶりに前月を上回り、島根県は2カ月ぶりに前月を下回った（全国は98.1で同1.5%低下）。

■鉱工業生産指数の前年比（原指数）をみると、鳥取県は9.9%上昇し、島根県も18.0%上昇した。鳥取県は6カ月連続で、島根県は7カ月連続で、それぞれ前年を上回った（全国は同11.6%上昇）。

《資料出所：鳥取・島根両県統計担当課、経済産業省》

《個別動向》

■鉄鋼

特殊鋼は受注の持ち直しや在庫調整の進展により生産が上向いており、電子材料や産業機器材料のなかにはコロナ禍直前の水準に戻った製品もみられる。工作機械用鋳物は、大型部品用加工機械の需要持ち直しなどを背景に受注が上向いている。

■一般機械

農業機械は、海外向けは量販機種を中心に増産を続けており、国内向けも小型・安価な機種の需要が底堅く、生産能力の上限に近い状況で操業している。その他の機械についても、電子部品の生産用機械を中心に持ち直しの動きがみられる。

■電子部品・デバイス

高度な安全装備を搭載した自動車の増加や高性能な情報通信機器の普及などを背景に引き合いは強いものの、モジュールを構成する製品の生産状況が一様ではないことなどから一進一退の動きが続いている。

■輸送機械

自動車需要の持ち直しをうけて部品生産もコロナ禍直前の水準に戻ったものの、半導体不足などを背景に完成車メーカーの生産計画の修正が続いていることなどから下押し圧力が徐々に強まっている。

■窯業・土石

生コンは、前年の道路工事の反動が残るなかで、公共施設の整備や工場の新設・増強などの継続案件が出荷を下支えしている。石州瓦は屋根材需要の変化への対応の遅れなどから低調に推移している。

■紙・パルプ

包装資材向けは包装の簡素化や贈答需要の低迷などを背景に弱含みで推移している。印刷・情報媒体向けについても、出版物の減少や電子メディアの増加などにより減少傾向にある。

■繊維

繊維製品は需要の季節変動による繁閑がみられるものの、国内需要の伸び悩みから、総じて低調に推移している。

■食品

内食需要にかかる商品は堅調に推移している。観光関連商品は観光支援策等の一部停止、外出自粛等から厳しい動きが続いている。

■木材・木製品

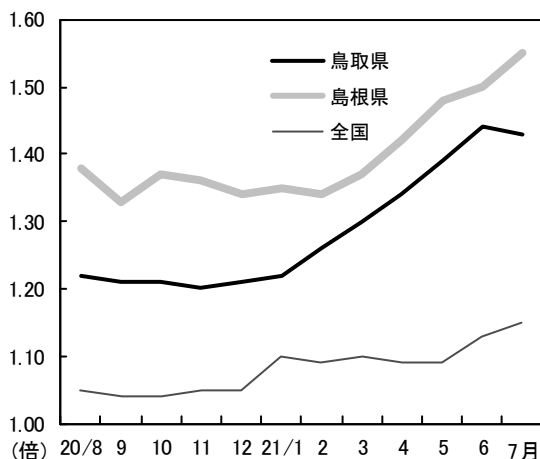
木製品需要は世界的な木材不足（原木・製材）に加え、これまでの生産調整の反動等もあり、持ち直しの動きがみられる。原木単価は輸入材の価格高騰の影響で、高止まりとなっている。

### 6. 雇用情勢



『一部に持ち直しの動き』

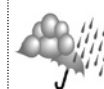
有効求人倍率（季節調整値）



- 7月の有効求人倍率（季調値）をみると、鳥取県は前月差0.01ポイント低下の1.43倍、島根県は前月差0.05ポイント上昇の1.55倍となった。一部に持ち直しの動きがみられる。
- 全国は前月差0.02ポイント上昇の1.15倍となった。

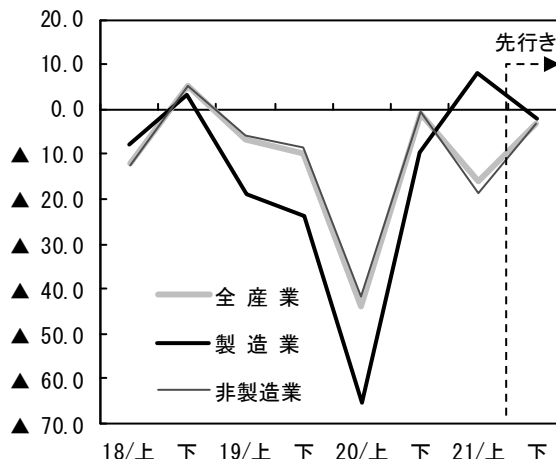
《資料出所：鳥取・島根労働局職業安定課、厚生労働省》

### 7. 企業の業況判断



『足元悪化、先行きは改善見通し』

業況判断BSI（企業動向調査9月）



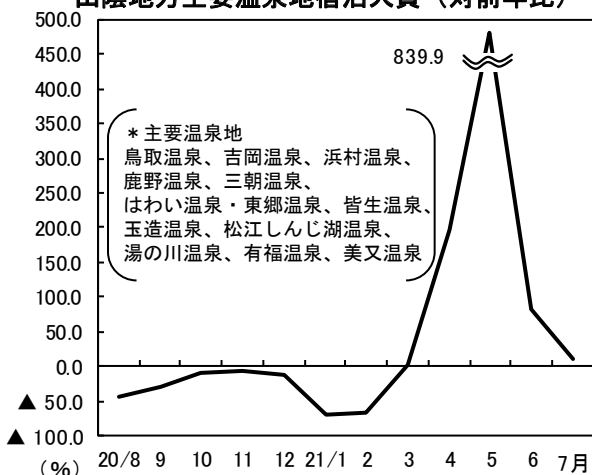
- 当行企業動向調査（21年9月）によると、足元の業況判断は、製造業は改善、非製造業は悪化し、全産業では悪化となった（前回▲1.2→今回▲16.2）。
- 先行きについては、製造業は悪化、非製造業は改善を見込んでおり、全産業では改善の見通しとなっている。

《資料出所：当行》

### 8. 主要温泉地宿泊人員

『5カ月連続で前年を上回る』

山陰地方主要温泉地宿泊人員（対前年比）



- 7月の主要温泉地宿泊人員は前年比11.5%増の80,584人と、5カ月連続で前年を上回った。新型コロナウイルスの影響が強く残る前年と比べ、増加となった。
- 鳥取県は前年比6.4%増と4カ月連続で、島根県は同18.7%増と5カ月連続で、それぞれ前年を上回った。
- 2021年累計（2021/1-7月）は、前年比6.3%減と前年を下回っている。

《資料出所：当行》

### 9. 企業倒産

『件数、負債額ともに前年を下回る』

倒産件数、負債額（単位：件、百万円、%）

	21/8月		21/1~8月	
	実数	前年比	実数	前年比
製造業	件数	0	2	▲ 33.3
	負債額	0	294	24.6
建設業	件数	0	6	20.0
	負債額	0	790	22.3
卸売業	件数	0	4	33.3
	負債額	0	1,025	▲ 85.5
小売業	件数	0	6	▲ 40.0
	負債額	0	224	▲ 76.4
その他業種	件数	2	14	▲ 12.5
	負債額	77	1,128	▲ 76.1
合計	件数	2	32	▲ 13.5
	負債額	77	3,461	▲ 74.6

- 8月の山陰両県の企業倒産（負債額1千万円以上）は、件数は前年比66.7%減の2件、負債額は同95.1%減の77百万円と3カ月連続で前年を下回った。
- 倒産件数の年累計（2021/1-8月）は、前年比13.5%減と前年を下回っている。また、業種別では、建設業、卸売業で前年を上回っている。

《資料出所：㈱東京商工リサーチ》

お天気マークの5分類

明るい



一部に明るさ



停滞



不振



厳しい



注：マークの右肩の△は先月より上方修正、▼は同じく下方修正を示す。（ ）は修正の一手手前の状況。

マンスリー山陰経済

2021年10月

発行：株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

〒690-0062

島根県松江市魚町10

TEL：0852-55-1000 FAX：0852-27-8249

無断転載を禁ずる